

米大統領選最終局面

アメリカの変容と行方

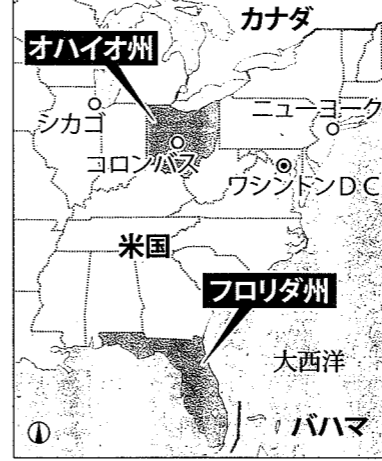
対談 古矢 旬 × 松尾 文夫 (北海商科大学教授) (ジャーナリスト)

接戦が続く米大統領選(11月6日投票)は3回目の討論会を終え、バラク・オバマ大統領(民主党)とミット・ロムニー前マサチューセッツ州知事(共和党)の対決が最終局面を迎えた。選挙戦から見える米社会の変容やその行方とは。アメリカ学協会会長の古矢旬・北海商科大学教授と、1960年代からアメリカの政治外交をウオッチするジャーナリストの松尾文夫氏に語り合ってもらった。

激戦州の情勢

—お二人が激戦州を回った時の印象をまずお願いします。

米大統領選の鍵をにぎる2州



松尾氏 私は今年も選挙戦の行方を決めるとみられるオハイオ州を9月中旬、取材しました。2004年以来3回目です。コロナバス市では両党の本部も訪問しましたが、自動車部品産業の活性化で失業率が全国平均を下回っていることもあり、オバマ氏優勢を感じていました。テレビ討論の前でしたが、そのテレビ討論ですが、1〜3回をどう総括しますか。

古矢氏 今月初めの1回目の討論会がロムニー氏の圧倒的優勢に終わったため、この選挙戦の潮流目がある程度変わりました。ロムニー氏の健闘ですが、そのテレビ討論で、1〜3回をどう総括しますか。

古矢氏 例えは、共和党保守派は医療や福祉は国でなく州の管理の下で民間が主導すべきだと主張してきました。彼らが医療の「社会主義化」と酷評する「オバマケア」(10年医療保険改革法)は、実のところロムニー氏がマサチューセッツ州知事として導入した制度に似ています。自党内の保守派を離反させないために、ロムニー氏は「オバマケア」を否定しながら、自らの政策は擁護するという、難しい論議を展開しなければならな

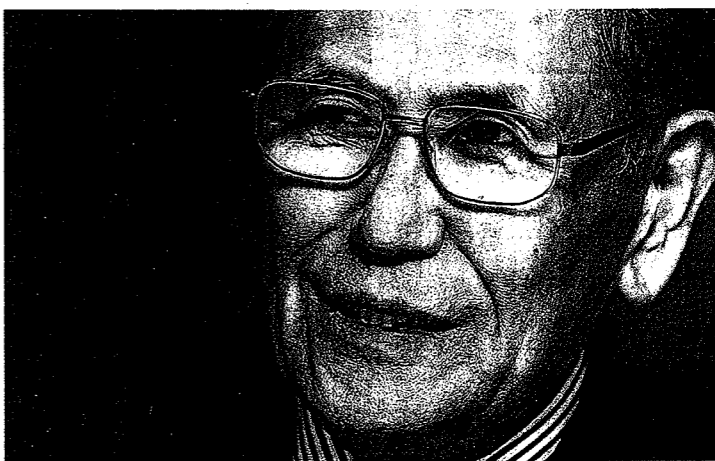
人種間緊張 現職の指導力制約



ふるや・じゅん 1947年生まれ。東京大博士課程中退。米プリンストン大で博士号。北海道大教授、東京大教授を経て現職。著書に『アメリカナイズム』『ブッシュからオバマへ』など。

古矢氏 初の大統領、オバマ氏の4年間を評価する。古矢氏 2008年のオバマ氏当選は、疑いなく50〜60年代の公民権運動の結実です。しかし表に出ない人種間の緊張は、今も米政治の底流をなしています。共和保守派を中心とする強烈な反オバマ運動の根底には、やはり人種差別を感じざるを得ません。それは、オバマ大統領の指導力に対する重大な制約要因となっています。例えば現在、米国流格差社会

政府の役割 久々争点に



まつお・ふみお 1966年生まれ。学習院大卒。元共同通信ワシントン支局長。著書に『銃を持つ民主主義』『日本エッセイストクラブ賞』『オバマ大統領がヒロシマに献花する日』など。

松尾氏 大きな政府か小さな政府かでこれほど対立するのは、レーガン氏が民主党のカーター大統領に勝った1980年の選挙以来でしょう。連邦政府の役割をめぐる対立は建国以来ですが、久々に大統領選の明確な争点になった。私たち2人がオハイオ州で会ったティーパーティーのメンバーは「政府はどんなに小さくても悪いことをするものだ」と言っています。

古矢氏 あの人たちの主張は確かに、政府の大小というよりは「制限政府論」ですね。独立宣言に記された「生命、自由、幸福追求」の権利は、人が神から与えられた金科玉条であり、いかなる政府の行為もそれを侵すことは許されないという主張です。

松尾氏 今度の選挙は黒人が再選されるかというテストでもある。オバマ氏再選が実現すれば、人種の多様性が大統領制にも定着するという意味で、米国の歴史にとって大きな意義をもつと思います。

古矢氏 将来の社会イメージが全く違います。オバマ氏は、米国をヨーロッパのように政府の制御により、格差が小さく、公正な国にしたいのだと思います。共和保守派と結んだロムニー氏は、やはり民間主導と市場競争を重視するリベタリアン(自由至上主義者)と言えます。外交面では、3回目の討論でロムニー氏は、オバマ氏に歩み寄るかのようにならなければ

選挙戦の熱気

大統領選の鍵をにぎるのは何か。今回の選挙戦から米国の行方をどう予想しますか。

松尾氏 私は失業率など経済動向が大きいと思います。9月の失業率が8%を切り、住宅市場も復調に転じたことが、実績不足のオバマ氏再選をぎりぎりのところで支えていると思う。

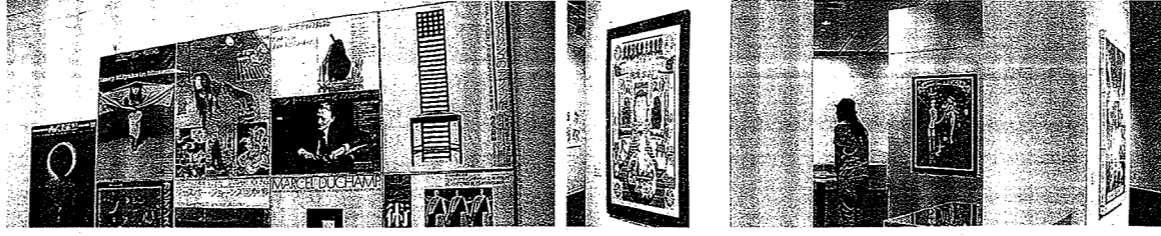
古矢氏 共和党は今回負けるかと打撃が大きいでしょう。ヒスパニックが増え、若い世代が民主党寄りになると、共和党の支持基盤は縮小してゆくことになりそうです。この人口動態に対応できそうな共和党の健健派は、レーガン時代から後、大きく弱体化しています。

松尾氏 同感です。それにしても選挙にかける米国のエネルギーは、同盟国である日本人に計り知れないものがあります。米国とは頑固なまでにいつまでも民主主義の原点と向き合う、「若い国」だと思っています。

古矢氏 そうですね。米国の大統領選には、下から積み上げてきたエネルギーを一気に解き放つダイナミズムがあります。党大会も選挙運動も一定のルールに従って民主主義を実践するという理念を体現しています。日本の民主党代表選や自民党総裁選には、米国の党大会のような熱気は感じられませんでした。

美術 出版 日本の70年代 1968—1982

出版 1970年の歩みを検討大阪万博やなどの転機を重要な時々の側面から形を差し出せと命じた腰元しのおを身代わるとするが、母のおわに娘を会わせるまでは弁慶が橋之助、おわ孝太郎、しのおと卿の



橋之助を座頭「弁慶上使」上演

中村橋之助II写真II した11月の歌舞伎巡幸「弁慶上使」と「手習」演される。



の館の正妻で平時忠の首を差し出せと命じた腰元しのおを身代わるとするが、母のおわに娘を会わせるまでは弁慶が橋之助、おわ孝太郎、しのおと卿の

の館の正妻で平時忠の首を差し出せと命じた腰元しのおを身代わるとするが、母のおわに娘を会わせるまでは弁慶が橋之助、おわ孝太郎、しのおと卿の